

Power MonitorH

CLIENT

ユーザースガイド

Windows2000
Windows Server 2003
Windows Server 2008

株式会社日立製作所
ジリオン・ネットワークス 株式会社

(HCLW080707)

= 目次 =

[ソフトウェア概要](#)

1. [インストール](#)

- 1-1. [インストール前の確認](#)
- 1-2. [インストール](#)
- 1-3. [サービスの起動](#)

2. [動作確認](#)

- 2-1. [サービス開始のチェック](#)
- 2-2. [サーバソフトウェア側 設定の確認](#)
- 2-3. [メッセージ表示のチェック](#)
- 2-4. [シャットダウン動作のチェック](#)

3. [基本動作](#)

- 3-1. [シャットダウン](#)
 - 3-1-1. [停電発生時](#)
 - 3-1-2. [スケジュール運転での停止時](#)

4. [動作条件の設定](#)

- 4-1. [シャットダウンのページ](#)
- 4-2. [ホストのページ](#)
- 4-3. [スクリプトのページ](#)
- 4-4. [履歴のページ](#)

5. [アンインストール](#)

1. 本マニュアルに記載されたソフトウェアは、ソフトウェア使用許諾契約の下で供給されています。
 2. 本マニュアルの内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
 3. OSの種類、バージョンまたはコンピュータの機種によって、本マニュアルの内容が実際と食い違う場合がありますのでご注意ください。
 4. 本マニュアルおよびそこに記載されている製品を使用したことによってシステムや機器に万一トラブルや故障が発生しても、弊社は原因の如何にかかわらず一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
 5. 本マニュアルの内容およびそこに記載されている製品の仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
 6. 製品の内容については万全を期していますが、ご不審の点、誤りおよび本マニュアルの記載漏れなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。
 7. ソフトウェアの改善が必要になった場合は、下記サポートページで告知します。サポートページからパッチキットをダウンロードしてください。
 8. ソフトウェアご購入時にご使用になるOSを選択いただいております。選択いただいていないOSでは使用しないでください。
-

|||| 商標について ||||

- Microsoft Windows は、Microsoft Corporationの米国およびにその他の国における登録商標です。
 - 本マニュアルに記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
-

|||| 保証期限 ||||

- 本商品の供給媒体の材料および製造上の瑕疵に対する保証期限は、お買い上げ日から3ヶ月です。
 - 本商品に付属のハードウェアの保証期限は、お買い上げ日から6ヶ月です。
-

|||| サポートについて ||||

本ソフトウェアに関するお問い合わせは、[ジリオン・ネットワークス株式会社へ直接電子メール](#)をお願いいたします。また、ホームページ上でもサポート情報をお届けしております。御参照ください。

サポートホームページ <http://www.zirion.co.jp/>

[ジリオン・ネットワークス株式会社](#)

ソフトウェア概要

本ソフトウェアは、Windowsを搭載したコンピュータで使用する無停電電源装置(以下、UPS)を監視するソフトウェア(以下、サーバソフトウェア)と連携するクライアントソフトウェアです。商用電源異常時のシステムの保護と電源状態の監視、システムの自動運転機能を提供します。

主な特長

オートシャットダウン機能

サーバソフトウェアが停電、低電圧、スケジュール終了の場合、シャットダウンする場合、クライアントソフトウェアは連動してシャットダウンします。

ヒストリ管理機能

サーバソフトウェアから通知されたメッセージを受信し、メッセージをポップアップ表示します。

ユーザコマンド実行機能

停電発生時やシャットダウン処理前など、特定のタイミングでユーザが作成したシェルプログラムを実行できます。

使用する OS 注意事項

UNIX・Linux、Windows のOS組み合わせによって、サーバソフトウェアとクライアントソフトウェアで連動させる組み合わせに注意してください。

サーバソフトウェア	クライアントソフトウェア	利用 :できる ×:できない
UNIX・Linux	UNIX・Linux	
UNIX・Linux	Windows	
Windows	Windows	
Windows	UNIX・Linux	×

動作環境条件

- サーバソフトウェアのコンピュータとクライアントソフトウェアのコンピュータが同一セグメント上であること
- 12010/udp のブロードキャストが通知または受信できること
- OSのシステム時計が±10分以内の誤差であること(UNIX・Linux使用の場合のみ)
- UNIX・Linuxはネットワーク機能:有効でインストールされていること
- 設定で、メッセージ通知がブロードキャストになっていること

1.インストール

インストールの手順を以下に説明します。

OSの種類、バージョンまたはコンピュータの機種によって、本マニュアルが実際と食い違う場合がありますのでご注意ください。

UPSとの接続

パワーモニタHのインストールされているコンピュータとパワーモニタHクライアントをインストールするコンピュータは、同一のUPS(無停電電源装置)から電源を使用してください。

セットアップ

1-1. インストール前の確認

1-1-1. ネットワークの設定



ネットワークが設定されていることを確認してください。コントロールパネルの「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。「ネットワークが組み込まれていません。直ちに組み込みますか?」のダイアログボックスが表示されたら、次の手順でネットワークを組み込んでください。

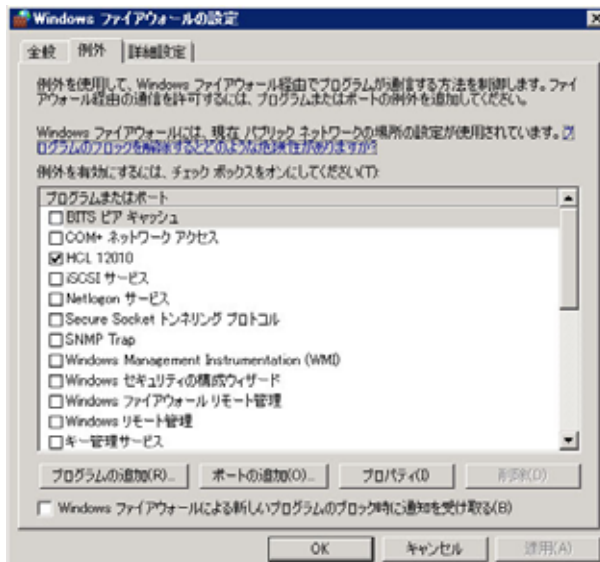
1. 「ネットワークが組み込まれていません。直ちに組み込みますか?」とダイアログボックスが表示されますので、[OK]ボタンをダブルクリックします。
2. WindowsシステムのCD-ROMドライブのパス名を入力します。
3. トランスポートプロトコル(TCP/IP)を選択します。
4. ネットワークアダプタカードを選びます。
5. 「ネットワークの設定」ダイアログボックスに戻ったら[OK]ボタンを押して、ネットワークを構成します。その後は表示されるメッセージにしたがってください。詳しくは、Windowsのネットワーク設定ヘルプをご覧ください。
6. Windowsを再起動します。
7. 再起動後以降の「インストール」手順に従ってソフトをインストールしてください。

1-1-2. Windowsファイアウォールの設定

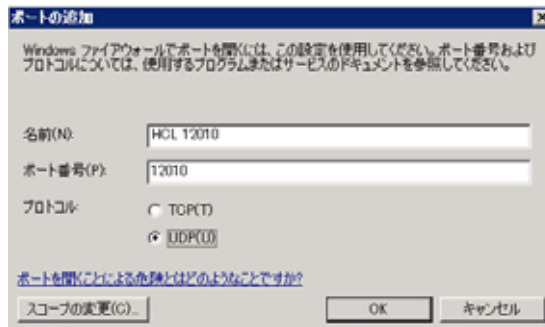


Windowsのバージョンによっては、OSに実装されているファイアウォール機能により、サーバソフトウェア(パワーモニタH)からのブロードキャストメッセージを受信できない場合があります。次の手順により、使用するネットワークポート番号を許可してください。(Windows Server2008 OS では必ず設定が必要です。)

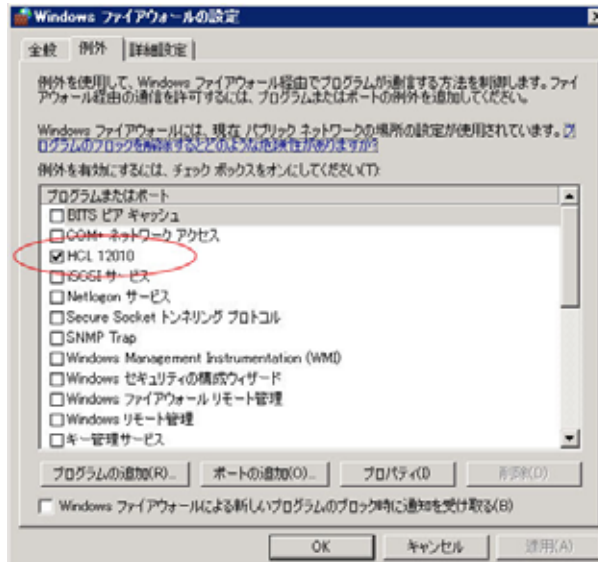
1. コントロールパネルの「Windowsファイアウォール」アイコンをダブルクリックします。
2. 表示された画面内より「設定の変更」をクリックし「Windows ファイアウォールの設定」画面を起動します。



3. 「ポートの追加」ボタンをクリックし、次のように設定値を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



4. 設定したポート番号が例外として有効になります。



5. [OK]ボタンをクリックして終了してください。

1-2.インストール



パワーモニタHクライアントは、パワーモニタHに連携して動作します。パワーモニタHが他のコンピュータにインストールされていることを確認してください。
 パワーモニタHクライアントは、ネットワークの設定がされている必要があります。



1. Windows を起動し、ユーザ名「Administrator」でログオンします。
2. 本ソフトウェアのCDをドライブに装着します。
3. エクスプローラーを起動し、CDドライブを選択します。CDにあるインストールプログラム (%CLIENT%\WINDOWS\setup.exe) を起動します。
 (注意) インストールプログラムは setup.exe です。setup.exe 以外のファイル でインストールを実行しないでください。実行した場合、正常にインストールが完了できない場合があります。もし、誤ってsetup.exe以外のファイルでインストールをした場合は、アンインストールして から setup.exe より正しいインストールをしてください。
4. 「InstallShield ウィザード」が開始されますので[次へ]ボタンをクリックします。
5. ソフトウェアのインストール先のフォルダを指定して[次へ]ボタンをクリックします。デフォルトのインストール先パスは c:\%mclient です。(EM64TやIPF等の64ビットCPUコンピュータで、インストールパスを Program files フォルダにする場合の注意) 本ソフトウェアは32ビットファイルが含まれています。64ビットのコンピュータで Program files フォルダに インストールする場合は、インストール時のパスは Program files (x86) フォルダ になります。
 (例) C:\Program files (x86)\%mclient
6. プログラムフォルダを指定して、[次へ]ボタンをクリックします。
7. 「ファイルコピーの開始」で現在の設定内容を確認します。確認後[次へ]ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。
8. 正常にインストールが終了すると終了画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。
9. インストール完了後、「UPS クライアント」グループに次のようなアイコンが登録されます。また、「スタートアップ」にメッセージをポップアップするツールが登録されます。



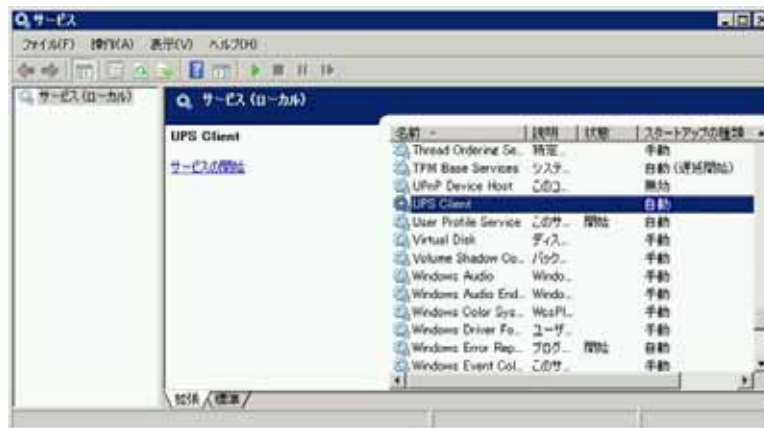
10. 「スタートアップ」に登録された「GL message tool」を起動してください。
11. 次の1-3.サービスの起動に進んでください。

1-3.サービスの起動

本ソフトウェアを使用するには、本ソフトウェアのサービスをコンピュータに登録して開始します。



1. スタートメニューの「管理ツール」→「サービス」を選択すると、以下の画面が表示されます。
2. 次に、「UPS Client」サービスの設定を行います。表示されているリストをスクロールして「UPS Client」の行をクリックして選択します。



3. 選択した行に「開始」の表示が含まれていたら、[停止]ボタンをクリックして、本ソフトのサービスを一旦停止します。
4. 「スタートアップの種類」が「手動」の場合は、「自動」に変更してください。これで本ソフトのサービスが、コンピュータの立ち上げ時に自動的に開始されます。
※すでに「自動」になっている場合は変更の必要はありません。
5. [開始]ボタンをクリックすると、サービスが開始されます。
6. コントロールパネルを終了します。

2.動作確認

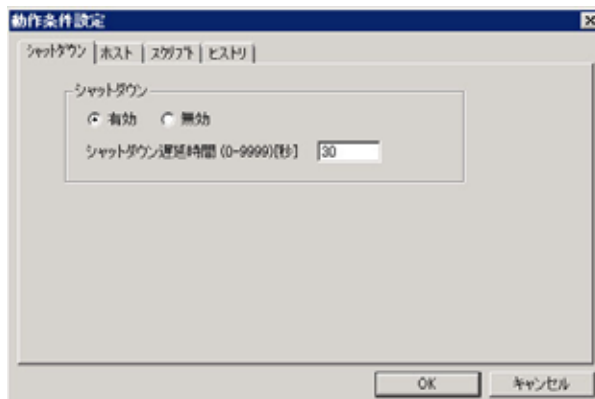
インストールが終了したら、以下の手順で本ソフトが正常に動作しているかを確認します。

2-1. サービス開始のチェック

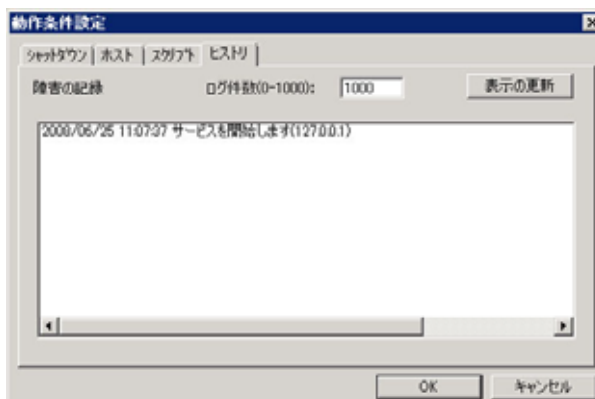
サービスが正常に開始しているか確認します。



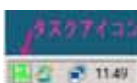
1. スタートメニュープログラムの「UPS クライアント」グループにある「動作条件」を起動します。



2. [ヒストリ] のページを選択し、「サービスを開始します (127.0.0.1)」が記録されていることを確認します。



3. 上記のメッセージが表示されていれば、サービスが開始されています。
4. スタートアップに登録された「CL message tool」が起動しているかを確認してください。起動後、タスクバーにアイコンが表示されます。



2-2. サーバソフトウェア側 設定の確認

サーバソフトウェア側の動作設定環境を確認します。



サーバソフトウェア側の設定で、メッセージのブロードキャストが設定されていることを確認してください。

1. スタートメニュープログラム、「パワーモニタH」グループの「動作条件設定」を起動します。
2. 「ブロードキャスト」ページを選択します。
3. 「PM message tool への通知」または、「クライアントソフトへの通知」の設定が「ブロードキャスト」に選択されていることを確認します。
下記の画面はサーバソフトウェアの設定画面の一例です。ソフトウェアの種類により表示内容が異なります。



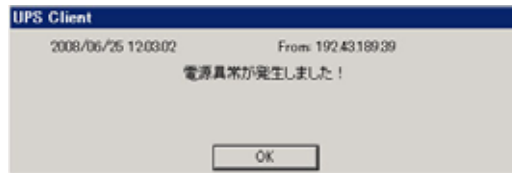
4. サーバソフトウェア側で、「ブロードキャスト」の設定になっていない場合は「ブロードキャスト」に設定してください。設定変更方法についてはサーバソフトウェア側のマニュアルを参照してください。
5. サーバソフトウェア側で、「Power Monitoring」サービスが開始されていることを確認します。

2-3. メッセージ表示のチェック

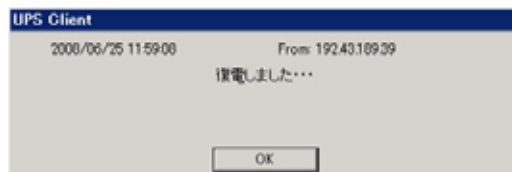
メッセージ表示が正しく行われるか確認します。



1. UPS の電源コンセントを抜いて停電状態をつくります。
2. 次のメッセージが表示されることを確認します。



3. UPS のコンセントをさして、復電します。
4. 次のメッセージが表示されることを確認します。



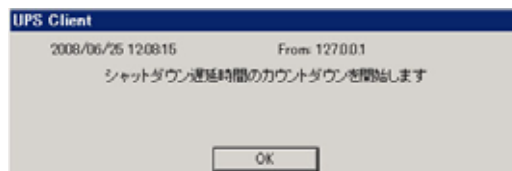
メッセージダイアログは、ログオフ状態では、表示されませんが、自動シャットダウンはします。

2-4. シャットダウン動作のチェック

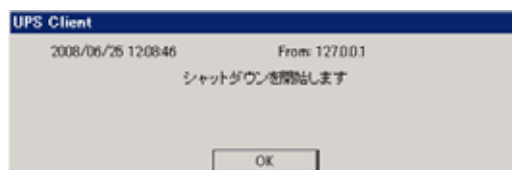
シャットダウン動作が正しく行われるか確認します。



1. UPSの電源コンセントを抜いて停電状態にします。
2. 150秒以上(停電確認時間)そのままの状態を保ちます。
3. 150秒以上(停電確認時間)経過すると次のメッセージがクライアント側で表示されることを確認します。



4. サーバ側のUPSのコンセントをさして、復電します。
5. メッセージの表示後、約30秒(シャットダウン遅延時間)が経過すると、次のメッセージを表示、シャットダウンが実行されます。



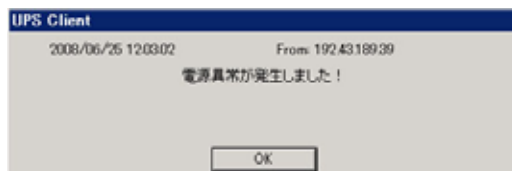
3.基本動作

サーバソフトウェアからのメッセージ(12010/udp)ブロードキャストメッセージを受信することにより、停電時及びスケジュール運転時のシャットダウンが可能になります。

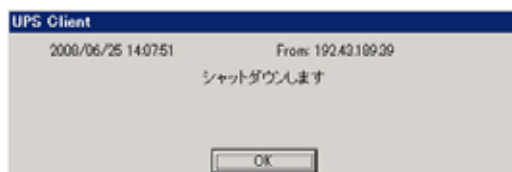
3-1. シャットダウン

3-1-1. 停電発生時

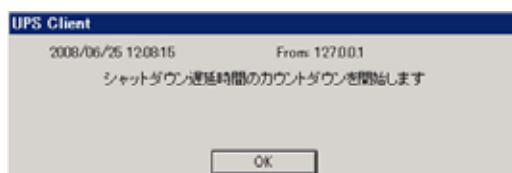
サーバソフトウェア側で停電発生時は、クライアントのWindows画面上に次のようなメッセージがポップアップされます。



停電開始から、サーバソフトウェア側で設定した“停電確認時間”が経過する、または、バッテリー電圧低下の状態になると次のメッセージがポップアップされます。



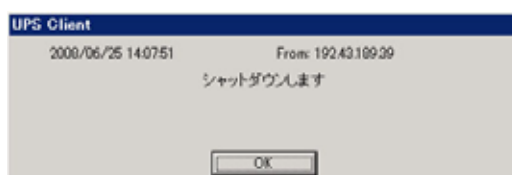
この時、シャットダウン実行処理が有効な場合は次のメッセージを表示します。



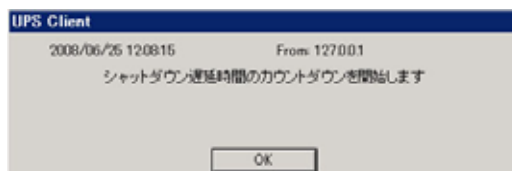
シャットダウン遅延時間が経過すると、OSを自動シャットダウンします。

3-1-2. スケジュール運転での停止時

サーバソフトウェア側で指定したスケジュール終了時刻がくると、クライアント側のWindows画面上に次のようなメッセージがポップアップされます。



この時、シャットダウン実行処理が有効な場合は次のメッセージを表示します。



シャットダウン遅延時間が経過すると、OSを自動シャットダウンします。



メッセージダイアログは、ログオフ状態では、表示されませんが、自動シャットダウンはします。

4.動作条件の設定

スタートメニュープログラムの「UPS クライアント」グループにある「動作条件設定」を起動します。
設定する項目は、関連のあるものごとに、いくつかのページに分けられています。



各項目の変更内容を有効するには、変更後 [OK] ボタンをクリックしてください。キャンセルすると、変更内容が反映されません。



同一UPSに接続しているサーバソフトウェア側の UPS自動停止時間 は、サーバとクライアント両方のOSがシャットダウンが完了できる十分な時間を設定してください。

4-1. シャットダウン のページ

停電が発生したときの時間を設定します。

- **シャットダウン**

サーバ側で停電などが起こり、回復不能とみなされたとき、クライアント側をシャットダウンするかどうかを指定します。
「ホストのページ」で、指定ホストを選択した場合には、指定されたホストに同期してシャットダウンが有効になります。

- **シャットダウン遅延時間**

シャットダウン処理に入ってから、実際にシャットダウンを行うまでの待機時間を指定します。この間にサーバ側の電源が回復してもシャットダウン処理は継続されます。デフォルトは30秒です。設定範囲は0 ~ 9999秒です。

4-2. ホストのページ

シャットダウンの有効・無効の対応ホストを設定します。

- **シャットダウン対応ホスト**

- 全てのホストを指定した場合は、同一セグメント内のサーバソフトウェアが動作しているホストと連動して動作します。
- 指定ホストを指定した場合は、同一セグメント内の指定したサーバソフトウェアが動作しているホストに連動して動作します。

- **削除ボタン**

削除したいホストの右端のチェックボタンにチェックを入れ、削除ボタンを押すと、選択したホストが削除されます。

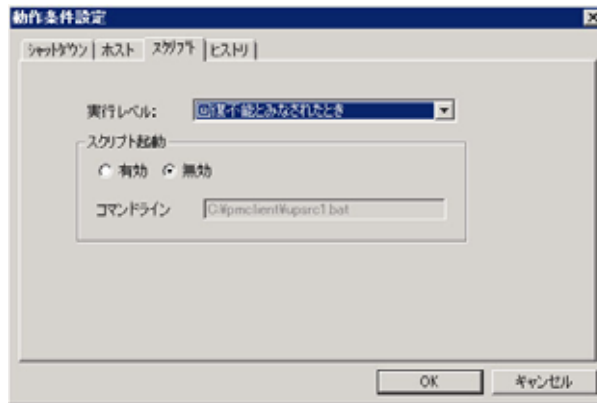
4-3. スクリプトのページ

スクリプト実行機能を設定します。

実行レベル: 設定するスクリプトレベルを設定します。

スクリプト起動: スクリプト起動の有効・無効を設定します。

コマンドライン: 起動するバッチファイルパスを指定します。



スクリプトの実行

本ソフトは以下の各段階ごとに、起動するスクリプト(バッチファイル)を設定することができます。

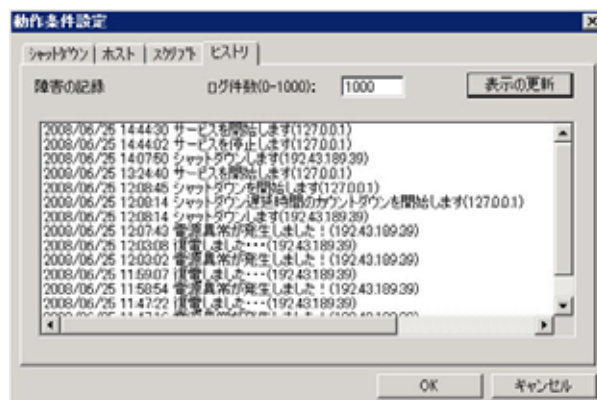
- 回復不能とみなされたとき
- 停電発生時
- 復電時
- スケジュール運転での停止時



1. 「実行レベル」を選択します。
2. 選択した実行レベルでスクリプトを起動するかを、[有効][無効]ボタンで設定します。
3. [有効]にした場合は、「コマンドライン」に実行するバッチファイルを絶対パスで設定します。「無効」にした場合は、そのレベルではバッチファイルは起動されません。

4-4. ヒストリのページ

クライアント側で受け取ったメッセージと、サービスの開始・停止状態が表示されます。



表示の更新ボタン

[表示の更新] ボタンを押すと、障害の記録項目の内容を最新のものに更新します。

ログ件数

障害の記録の最大表示件数を設定します(0~1000)。ログ件数が最大件数を超えると、古いものから順番に削除され、最大ログ件数で記録されます。

ログファイルはインストールディレクトリ下に upclient.log ファイル名で記録されています。このファイル名は固定となっています。任意に編集しないでください。

5. アンインストール

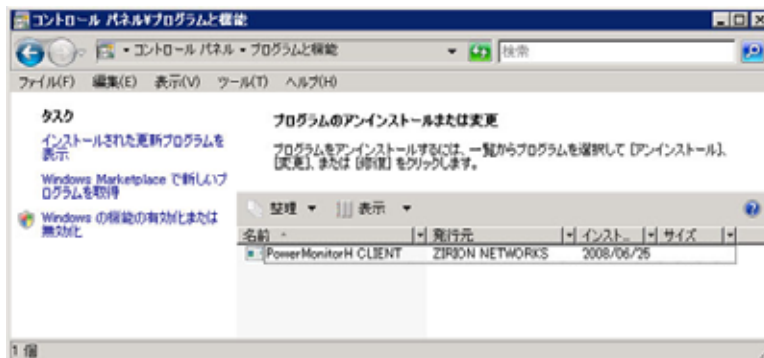
アンインストールは、インストールされているソフトウェア(プログラム)一覧表から削除します。
 (注意) 一覧表はOSごとに起動方法が異なります。



「PowerMonitorHクライアントの削除」は、本ソフトウェアアプリケーションが動作していないことを確認の上実行してください。

・WindowsServer2008 の場合

1. Administratorでログインします。
2. 「スタート」メニュー「コントロールパネル」から、「プログラムと機能」を選択します。
3. 「プログラムのアンインストールまたは変更」一覧から「PowerMonitorH Client」を選択し、「アンインストールと変更」をクリックします。



・WindowsServer2003 の場合

1. Administratorでログインします。
2. 「スタート」メニュー「コントロールパネル」から、「プログラムの追加と削除」を選択します。
3. 現在インストールされているプログラム一覧から「PowerMonitorH Client」を選択し、「変更と削除」ボタンをクリックします。



・Windows2000 の場合

1. Administratorでログインします。
2. 「スタート」メニュー「設定」「コントロールパネル」から、「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
3. 現在インストールされているプログラム一覧から「PowerMonitorH Client」を選択し、「変更と削除」ボタンをクリックします。



「CL message tool」が起動している場合は、アンインストール作業が途中で中断します。「CL message tool」を終了させてからアンインストールを完了させてください。

「CL message tool」の終了方法

1. デスクトップのタスクバー上で「CL mesasge tool」アイコンを右クリックします。



2. 右クリックメニューより「QUIT」選択でツールを終了させます。



アンインストール実行時に、リモートデスクトップ等により、他ユーザがログイン中の場合は、「CL message tool」などアプリケーションツールのプロセスが動作し続けている場合があります。この場合、アンインストールが正しく完了できない場合があります。ログイン中のユーザがいる場合は、必ず自分自身以外のユーザがログオフしていることを確認してください。